

特別支援教育課通信

北山の陽だまり



平成30年1月発行 (第33号)

【雪景色の研修センター】

1月後半から大寒波が押し寄せています。毎日、氷点下の朝を迎え、日中も冷蔵庫の中に入っているかのようです。先日の大雪では、大変な思いをされた先生方も多かったのではないのでしょうか。学校や自宅の雪かき、出退勤時の交通渋滞、2時間遅れや休校への対応…など、予想はついていたものの、いざとなると様々な困難があるものです。

研修センターにおいても、23日(火)にいくつかの講座がありました。特別支援学校の中堅教諭等資質向上研修会も入っていました。当日は、1時間遅れの対応にしたものの、高速道路の通行止めや交通渋滞があったり、電車で順調に来たけれど最寄り駅からのタクシーがつかまらない…など、本当にご苦労されたとのことでした。

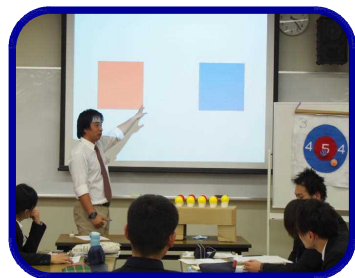
「自分は、スタッドレスタイヤをはいているし、ガソリンも満タンだから大丈夫!」と想着いても、倒木による道路の閉鎖や事故渋滞、通行止めなどによって、思い通りにはならないことを今回痛感させられました。日頃から様々な要因を予測し、万が一の時の対応を考えておくことや、いざという時の決断力の大切さを再認識したところです。

学校現場では、インフルエンザやノロウイルスなども広がっているようです。児童生徒だけでなく、先生方も体調を崩さないように留意していただければと思います。

特別支援教育課長

【特別支援学校(年次研修) 一年間の研究発表】

1～2月にかけて、特別支援学校の初任者から中堅教諭までの先生方が年次研修で一年間研究したことの実践発表が行われています。児童生徒の実態をしっかりと把握した上で、手立てを講じ、授業実践を行うことができています。



【2年次研修 発表・協議の様子】

協議においても、自身の経験をもとに、「こんなところは参考になった」「自分だったらこうすると思う」など、改善の視点をもった意見交換が多く見られ、頼もしさを感じることができました。各自の課題を次のステップへと生かすように、これからも研修に励まれることを期待しております。